

専門研修プログラム名	川崎医科大学附属病院連携施設精神科	専門研修プログラム
基幹施設名	学校法人川崎学園 川崎医科大学附属病院	
プログラム統括責任者	石原 武士	

専門研修プログラムの概要	川崎医科大学附属病院は、1,182床を有する地域基幹病院であり、精神科病棟は28床の開放病棟である。最新の検査及び医療機器を設備し、これらを駆使して的確な診断と治療を行っている。精神科に於いては、あらゆる種類の精神疾患を経験できるが、特に児童・思春期症例が豊富である。身体疾患合併症例に対しても他科と協力しつつ治療経験をつむことができる。また、緩和医療における精神科の役割を経験できる。研修の特徴は、精神療法の研修が充実していることである。力動的な精神療法や認知・行動療法などの体系的な精神療法の研修が受けられることはもちろんであるが、精神療法の基礎であり根幹である支持的な精神療法を十分習得できる。	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	1年目は川崎医科大学附属病院で指導医の指導のもと、入院患者数名を受け持ち、OJTや症例検討会、クルズス、カンファレンスなどを通じて、診断、薬物療法、修正型電気けいれん療法、精神療法、チーム医療、ソーシャルワークなどの精神科医としての基本的なスキルを身に付けていく。遅くとも精神科2年目頃には外来診療も指導医の指導のもと担当できるよう実力をつけるようにする。専攻医は2年目あるいは3年目に、原則単科精神科病院をローテートすることになる。単科精神科病院においては、措置入院、医療保護入院などの非自発的入院症例や身体拘束、隔離など行動制限が必要な症例を経験したり、精神科救急を経験したりする。	
専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	1年目は川崎医科大学附属病院で、指導医の指導、クルズスなどを通して、基本的な知識、技能、態度を一通り身に付けるようにする。いずれの施設でも、児童・思春期障害、アルコール・薬物依存症の症例を学べる。
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	症例検討会、カンファレンス、クルズス、などに参加する。症例検討会、カンファレンスで指導医の指導のもと発表し、討論する。
	学問的姿勢	常に研鑽自己学習することが求められる。精神医学に関連する、基礎医学、心理学についての知識を習得するように努める。患者に向き合うことによって、精神科医としての態度や技能を自ら学習する姿勢を養う。
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	精神科医としての臨床能力（コンピテンシー）には、その土台として、医師としての基本的診療能力（コアコンピテンシー）が重要である。指導医の指導、他科の医師や他職種との関わり、学術集会、研修会などへの参加、などを通じて、医師としての責任、社会性、倫理観などを学んでいく。
施設群による研修プログラムと地域医療についての考	年次毎の研修計画	年度末に選考医と話し合い、どの医療機関で研修を受けるのかを含め、次年度の計画をたてる。
	研修施設群と研修プログラム	希望する病院のポストに空きがあれば、研修する病院の選定については専攻医本人の希望が最優先される。

え方	地域医療について	地域性に配慮し、基幹病院が属する県南西部保健医療圏（岡山県）とこの医療圏の周囲にある高梁・新見保健医療圏（岡山県）、県南東部保健医療圏（岡山県）などに属する主要精神科医療機関が連携施設となっている。
専門研修の評価		当該研修施設での研修修了時に、専攻医は研修目標の達成度を評価する。その後に研修指導医は専攻医を評価し、専攻医にフィードバックする。その後に研修指導責任者に報告する。
修了判定		研修ガイドラインに則って3年以上の研修を行い、専攻医と研修指導医が評価する研修項目表による評価、多職種による評価、経験症例数リストの提出を求め、研修プログラム統括責任者により専門医受験資格が認められたことをもって修了したものとする。
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	研修プログラムの作成や、プログラム施行上の問題点の検討や再評価を継続的に行う。また各専攻医の統括的な管理や評価を行う。専攻医および指導医に対して助言を行う。
	専攻医の就業環境	研修環境を整備し、研修を管理する。
	専門研修プログラムの改善	指導医、専攻医による双方向の評価を専門研修管理委員会で検討し、プログラムの改善を行う。
	専攻医の採用と修了	選考医の採用を行う。また、知識・技能・態度それぞれについて評価を行い、総合的に修了を判定する。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	特定の理由のために専門研修が困難な場合は、申請により、専門研修を中断することができる。他のプログラムへ移動しなければならない特別な事情が生じた場合は、精神科専門医制度委員会で事情が承認された場合は、他のプログラムへの移動が出来る。
	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	日本精神神経学会によるサイトビジットを受け、調査に応じる。サイトビジットには、研修プログラム統括責任者、研修指導責任者、研修指導医の一部、専攻医すべてが対応する。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、 役職を記述してください。		石原武士（川崎医科大学附属病院・主任教授）、村上伸治（川崎医科大学附属病院・准教授）、宮崎哲治（川崎医科大学附属病院・講師）、高橋優（川崎医科大学附属病院・講師）、森祥子（川崎医科大学附属病院・臨床助教）和辻健太（川崎医科大学総合医療センター・講師）、北野 絵莉子（川崎医科大学総合医療センター・講師）、他
Subspecialty領域との連続性		選考医が将来専攻したい分野(subspecialty)の指導が受けられる施設で研修を行うことを原則とする。